



## ZOOM 講演会 顛末記

横手 康紀 (第一事業委員長)

「やってみたくくなりましたね」「やりますか」その後 ZOOM 友達とも言うべき存在となり講演会迄のひと月余り二日と空けずに画面上で顔を合わせることになる中村正俊さん(第一事業委員)との会話からオンライン講演会への取り組みが始まった。

新型コロナウイルスの蔓延で3月、4月と午餐会は中止、5月29日開催予定の午餐会も開催は難しいと判断し、出演交渉をして頂いた中村さんから講師の野口悠紀雄先生に中止の希望を伝えて頂いたところ、状況が状況なので中止は勿論結構だが ZOOM を使ったオンラインでの開催を考へてみる良い機会かも知れませんよとのお返事を頂いた。ZOOM 使用と言われても全く経験がなくどうして良いか判断に迷い色々な方にご意見を求めてみたが反応は総じてネガティブ、やはり諦めようと再度中止の希望をお伝えしたところ、残念ですね、これから主流になるかも知れないリモートでの会合に一步踏み出す絶好のチャンスなのに、私も最近はオンライン講演会が多くなって来ているので分からないことがあれば幾らでも相談に乗りますよ、と再度押し返されて冒頭の会話となった。野口先生は79歳と伺っており、その先生が新しく取組んでおられるのであれば負けてはられないとの思いもあった。

やると決めたら善(?)は急げ。時間が限られていたこともあり早速会員の皆さんにオンラインでの開催を通知し参加募集に踏み切った。参加希望者が少なければ止めてしまおうとの下心もなくはなかったが意外に早く30名強の皆さんから参加のご連絡を頂いた。この時点では未だ ZOOM の操作は野口先生の事務所にやって頂ける、私達の役割は会員の皆さんの ZOOM 使用をサポートすることだと思っていた。ところが、その後野口事務所との接触を深める内にそれが私達の勝手な思い込みで、講演会を主催し ZOOM を操作するのは我々で、ゲスト参加され

る野口先生にご講演頂くと言うご趣旨であることが分かって真っ青、最早後に引くことも出来ず早速 ZOOM 勉強会を結成して俄か勉強に取り組むこととなった。

勉強会のメンバーは中村さんと事務局の服部さん、松浦さんに私を加えた4名。中村さんは何回かオンライン講演会に参加した経験をお持ちで ZOOM の何たるかはご存知、松浦さんはコロナ以来コーラス仲間との打合せを ZOOM でやっているとのことで、共に参加する側の経験のみとは言え経験者のいることは大変心強く思えた。

野口先生も流石に不安に思われたのかまずは ZOOM を経験してみなさいとファイナンス稲門会主催の先生のオンライン講演会に招待頂いた。参加してみると講師である先生との距離が非常に近く感じられ普通の講演会以上に切迫感があって面白い。ただ、画面上に講師や参加者の顔が映し出されているのに私に関しては真っ黒い枠に名前が出ているだけ。これは私が使用したデスクトップ型のパソコンにはカメラもマイクも備わっていなかった為とすることが分かり、早速外付けのカメラとマイクを買いに走ったもののオンラインの普及が急速に進みつつあってどの店も売り切れ(私は電気の街秋葉原に住んでいるんですけどね)。仕方ないので娘から偶々余っていたノートパソコンを譲り受けることとした。

もう何回かご案内しているが、ZOOM に参加するにはカメラとマイクの付いたパソコンかスマートフォンが必要、デスクトップ型でカメラ・マイクが付いていないケースでも講演の視聴は可能ながら自身の顔は映らず発言も出来ない。外付けのカメラ、マイクも最近は結構安価で入手可能になって来ている。

その後、練習の為4人でのミーティングをスケジュールし招待を試みるが、何度やっても「招待状は

期限切れ」との表示となって開催出来ない事態が続く。焦りを感じ始めていたところに、見計らったように野口先生から救いの手が伸び、ファイナンス稲門会で先述の講演会を主催された方々との ZOOM を使った ZOOM の勉強会を開いて頂いた。その勉強会で大分手順の理解が進み、招待状は個別に送るのではなく作った招待状をコピーしメールに貼り付けて一括して出状した方が良い、参加者がパスワード入力を必要とせず参加し易い設定方法を探るべきだと言った細かい技術的なことを教えて頂き、何とかミーティングを主催し仲間を招待出来るまでになって来た。

更に ZOOM 勉強会の 4 名で練習会を重ね徐々にスムーズに操作が出来るようになって来たところで、少し大人数でも試してみたくなり、学生時代の同級生達に声を掛けて ZOOM による懇親会を開いてみた。未だ、企業に在職中の友人や大学で教鞭を取っている友人もいて、実際に ZOOM を使用した経験に基づく失敗談、苦労話なども聞くことが出来て大いに参考になった。

そうこうする内に野口先生から本番前に一度練習会をやろうとのお誘いを受けた。本当に講演会が開けるのか心配しておられたと言うこともあるだろうが、野口先生の親切心と熱心さには心打たれる思いだった。先生と秘書の富田さんに我々勉強会の 4 名での練習会では、講演会の手順、文書共有の機能を使った資料の出し方、音声の管理、質問の出し方、チャットの使用等きめ細かな打ち合わせが出来、何とか講演会がやれそうだと自信のようなものも湧いて来た。皆さんから事前に頂いた質問は夫々の質問者にご自身の声で質問願う方が全員参加型の講演会になって良いと思ったが、それでは多分音声管理、時間管理に問題が出るだろうとの先生のご指摘を受けて今回は司会者が全て代読することとしたがこの点は今後の課題であると認識している。

ZOOM 勉強会の最後の練習では司会者としての私に色々注文が付いた。服部さんからは顔の位置が悪い、声が低過ぎて聞き取り難い、松浦さんからはコーラスの経験を元にもう少し口を大きく開けてゆっくり、はっきり喋れと言った厳しいご忠告を頂いた。流石に顔を替えろとの注文はなかったがアイア

ン・クラブの事務局は仕事熱心で頼りになる反面とても辛辣なんですよ。

愈々講演会当日、何より感激したのは 75 名もの会員の皆さんに参加頂いたこと。事前に事務局への ZOOM 使用方法に就いての問い合わせも多数あって皆さんの関心の強さと新しいものへ取り組む姿勢に圧倒される思いであった。

12:30 開始にも拘わらず 12 時頃にはかなりの人数の方達が入場され、コロナ騒ぎでお互いに顔を合わせる機会がない日々が続いたこともあって、ヤアヤアとまるで同窓会会場に来たかのように和気藹々の挨拶が交わされ、早めに参加された野口先生もその親密な様子と元気の良さにしきりに感心しておら



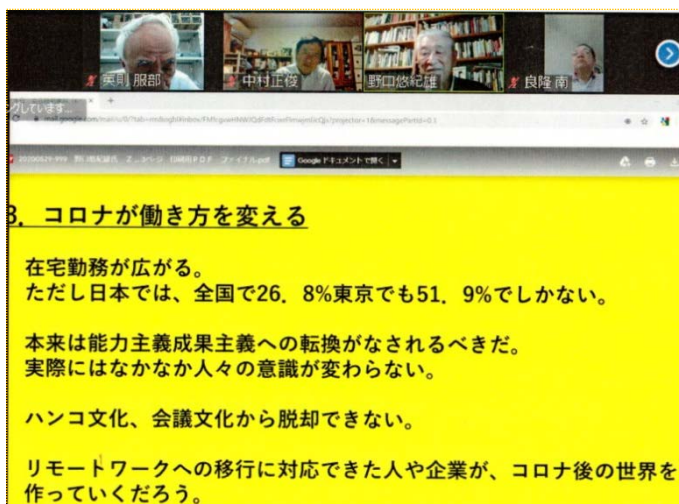
れた。一寸細くなるが、今回、稲門会の方達のアドバイスを基に「パスワードなしの参加を許可する、ホスト入場前に入場を可とする、待機室を設けて一旦参加者を止め置くことはしない」と言った設定にして置いたことが功を奏したとの印象で、皆さんがお互いの挨拶を通じてすっかり画面上で打ち解け急速にオンラインへの違和感が無くなって行くのが実感出来た。

実は、野口先生のご講演が始まって直ぐに私にとっては大きな問題が起きた。私のパソコンが、私の不注意で切れてしまったのだ。今回、ZOOM 勉強会のお三方を「共同ホスト」に指名して置いたので ZOOM はそのいずれかのパソコンに移動して講演会そのものは変化なく継続出来たが私の方は再接続に必死。やっと繋がって何食わぬ顔で再登場した積りが、やはり動揺していて資料を出し忘れ、秘書の富田さんから電話でご指摘を受ける始末であった。資料を出すのに文書共有機能を使うことはご説明したが、ZOOM では更にホワイトボードを出してそこ

にメモをしながら議論することも出来る。これは仲間内の会議に有効な機能であると思う。

尚、画面に関して言えば、参加者は「スピーカービュー」と「ギャラリービュー」のいずれかを選ぶことが出来る。前者なら話している人の顔が拡大表示され、後者であれば参加者の顔が平均的な大きさで表示される中、話している人の顔が黄色い線で囲まれる。

ご講演の詳細は講演録に譲りここでは触れないが、新型コロナが蔓延する中での経済・金融政策に始まり、働き方改革の必要性、更にはコロナ後に起こるであろう世界秩序の変化と広範なテーマを予定通り略々40分に纏めてお話し頂き、質問も予め頂いたものを私が代読し野口先生にお答え頂く手順で順調に進んだ。特筆したいのはチャットでの質問が幾つかあったこと。講演を聞きながらチャットに質問を打ち込むという作業はそう簡単とは思えないので多分チャットは使われないだろうと考えていた。ZOOM画面上のチャットの文字は小さく、質問を予期していなかった私は老眼鏡を手許に置いていなかった為に画面に顔を近付けなければ読めず、余り人前に晒したくない顔をアップでお見せすることになってしまった。何事も勝手に思い込んではいけませんね。



こう言った全てを含めて、参加された皆さんの大変前向きな取組み姿勢が表れた一時間となり、野口先生からは、決して若いとは言えない人達が初めてのオンライン講演会にこれだけ多数、然も積極的に参加されたことは素晴らしく、日本企業に導入が急がれるリモートワークにアイアン・クラブがお手本

を示したと言っても過言ではないとの過分とも言える賛辞を頂いた。色々ドタバタする場面はあったが初めての試みとしては先ずは成功と言えそうで、参加頂いた皆さん、支えて頂いた皆さんに心より御礼を申し上げます。ただ、講演会終了後直ぐにZOOMを終了したことにはご批判もあり、折角久し振りに会った方達ともう少しゆっくり交流したかったとの声を頂いた。確かに折角の機会でもあるので、今後、留意すべき点だと思っている。

緊急事態宣言は解除されたもののコロナの蔓延は収まる心配がなく、ワクチンもない状況では何時になったら通常の午餐会が開けるか目途も立たない。6月の午餐会は経産省の福永参事官にお願いしていたが security 上の問題で経産省がZOOMを禁止している、Microsoft TeamsならOKとのこと、流石に5月がZOOM、6月がTeamsでは対応に自信が持たずお断りせざるを得なかった。済みません。ZOOMのSecurity問題は、野口先生にもご意見を伺ったが、経産省のように高度な機密を扱う組織は兎も角講演会程度であれば先ず問題はない、更にZOOMも新versionでは暗号化もなされたので今後問題はなくなる筈とのことであった。最近、FRBパウエル議長オンライン記者会見の実況中継を見たらZOOM使用であった。Security問題も解消されつつあると一寸安心した次第。

7月は東大大学院の阿古智子教授に「新型コロナウイルスをめぐる攻防(中国をどう捉えるか)」をテーマに、オンラインでご講演を頂く。この駄文が皆さんのお目に掛かるのはご講演の後になるが、6月末現在で参加者が既に140名を超えている。東大大学院も今は、授業は基本的にZOOMでしかやらないとのことで今回は阿古先生に全ての操作をやって頂ける。私も一参加者として楽をさせて頂きながら今後の参考に色々な操作技術を盗もうと楽しみにしている。

講演会のみならずアイアン・クラブの委員会もオンラインで開催するケースが増えて来た。第一事業委員会も先日ZOOMで開催したが殆どの委員が参加、熱心な議論を展開頂いた。中には、最初はハワイから参加し途中でサンフランシスコへ移動すると言う離れ業をご披露頂いた方もあって場が和んだ。

ZOOMでは適宜背景を変えることも出来るので、このように遊び心を持ちながら議論に加わることも可能である。通常の会議に比べると参加者同士の親近感や近接感が強まり講演や議論にとっても向いていると感じている。

又、未だ在職中の現役会員の皆さんには、これまでは時間的な制約から午餐会になかなか参加頂けなかったが、オンラインであれば昼休みを使って事務所からでもパソコンやスマートフォンで参加頂くことが出来、アイアン・クラブの会員である特典を享受頂き易くなるものと期待している。この為、講演会は12:30開始、時間は一時間程度としている。更に、関西はじめ首都圏以外に在住の会員の皆さんにも距離の壁を越えて参加頂けることでアイアン・ク

ラブの地理的な広がりが増すようにも感じている。こう言ったことを視野に、午餐会再開後もZOOMを併用してはどうかのご意見がある。講師の方のご了承が得られることが条件となるし、何よりも技術的に対応出来るようになるか乗り越えるべき課題は多いが、鋭意検討して参りたい。

何れにしても野口先生のお誘いと強い後押しを頂くことがなければ午餐会は中止続きになったのではないかと、そう思うと感謝の気持ちで一杯である。何とか一回やり終えたくらいで申し上げるのもおこがましいが、これからもZOOMの習熟に努め、新しく良い技術が出てくれば取り入れる努力も怠らず、より良い午餐会（講演会）を目指して行きたい。

今後ともご支援の程宜しくお願い申し上げます。

以下、余白